

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
1 4	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
<b>題名 (原題/訳)</b>	
<p>Volume of alcohol consumption, patterns of drinking and burden of disease in the European region 2002.</p> <p>2002年のヨーロッパでのアルコール消費量と飲酒のパターン、アルコールの病気に対する負荷</p>	
<b>執筆者</b>	
Rehm J, Taylor B, Patra J.	
<b>掲載誌 (番号又は発行年月日)</b>	
Addiction. 2006 Aug;101(8):1086-95.	
<b>キーワード</b>	
アルコール消費量と飲酒パターン、アルコールの社会的負荷、余命損失 (YLL)、障害調整生命年 (DALY)	
<b>要 旨</b>	
<p><b>目的:</b></p> <p>2002年のWHOのヨーロッパ地域のアルコール消費量と飲酒パターンを記述し、アルコールの疾患に対する寄与を定量的に評価した。</p> <p><b>方法:</b></p> <p>曝露情報としてWHOの「Comparative Risk Assessment, outcome data from the WHO Measurement and Health Information department」の情報から死亡数、死亡による余命損失 (YLL: 死亡年齢を理想的な平均余命から引き、余命損失として算出したもの)、障害調整生命年 (DALY: 各種疾患による生命の損失や障害の総体を、苦痛や障害を考慮に入れて定量化したもの) の2002年のデータを用いた。全ての分析は性別、年齢、地域を考慮し算出した。</p> <p><b>結果:</b></p> <p>WHOの区域でのヨーロッパでのアルコール消費は多く、1人あたり12.1Lの純アルコールを消費しており、世界的標準値のほぼ2倍である。全死亡の6.1%、YLLの12.3%、DALYの10.7%は飲酒が原因である。故意または故意的でない怪我はアルコールに起因する死亡の50%と、アルコールが原因で起こる病気の約44%を占める。アルコールの影響は若者と男性でもっとも大きく見られる。地理的にはロシア周囲の東欧でアルコールに起因する病気の寄与が大きい。</p> <p><b>結論:</b></p> <p>ヨーロッパ地域におけるアルコール関連疾患の負荷を減らすために介入を実施するべきである。以上より、外傷予防 (交通外傷を含む) と若者に対する特異的な予防がアルコールによる負荷を減らすための総括的な計画における重要な役割を果たすべきである。</p>	